



中舞鶴の歴史・くらし探検隊 活動ニュース

第10号

発行 平成28年9月30日

編集 中央公民館

舞鶴市字余部下1167

28年度
(第5回活動)
公開講座

中舞鶴の商店街の移り変わり 実業会の元会長2人にお話しを伺う

第5回活動では、中舞鶴実業会の元会長・村川巳之助氏と谷岡年夫氏を講師に迎え、所蔵されている写真や様々な出版物等の資料を参考にしながらたくさんのお話を伺いました。商店街の移り変わりばかりではなく、同会が地域活性化のために取り組んでこられた共楽公園花まつりや中舞鶴まつり等に関するエピソードを興味深く聴かせていただきました。お二人のお話しの概要を記します。

共楽公園を活性化の目玉に ミス桜選出、有名歌手ショー

中舞鶴実業会の前身として、昭和6年、当時の中舞鶴実業協会が中舞鶴商工会と名称変更。昭和21年には、中舞鶴のまちを盛り上げようと中舞鶴振興会がつけられ、それが今の中舞鶴実業会となった。一貫しているのは、大正時代に開園した共楽公園を目玉に地域活性化を図ろうとしたこと。

昭和38年には、花まつりに花を添えたいと“ミス桜”を募集。しかし恥ずかしくて応募してくれないので、自衛隊に協力を求めたことを覚えている。ミス桜には中舞鶴の全ての行事に参加してもらったが、昭和40年までの3年で終了した。

昭和56年からは有名な歌手(黛ジュン、扇ひろ子など)をよんだ。当時は来場者の引く間がないほど。会場には早朝5時から場所取りに来る人もいた。最近では当時のように協賛金が集まらないので、微々たる催しとなってきた。《次頁に続く》



写真上:写真や資料等をスライドにして説明。同左:村川さん(右)と谷岡さん(左)、現在も実業会の重責を担われている(28年9月4日、中央公民館)



有名歌手をよんで歌謡ショー(昭和60年)

初めての「ミス桜」(昭和38年)

探検隊の公開講座

みんなで語る「中舞鶴の歴史展」

28年10月4日(火)午後7時～
中央公民館 401会議室
入場無料、申込不要

平成16～18年度に開催された「中舞鶴の歴史展」の中心的メンバーから、記録写真等とともに、開催意図、成果などをお聞きし、会場のみんで語り合います。

今号の内容

第5回活動結果 1・2頁
(商店街の移り変わり)
第4回活動報告 3・4頁
(中舞鶴の暮らしあれこれ)
連載「舞鶴の地名」 4頁

中舞鶴まつりは、「ちゃったまつり」への協力(カラオケ担当)で終わるのではなく、中舞鶴独自の祭りやろうと、昭和50年代半ばから市民グラウンドで実施。その後会場を、児童公園、中総合会館駐車場と変えているが現在も続いている。

く山頂広場の野外ステージ、ぼんぼり>

以前は、ビール箱を並べて特設ステージをつくっていたが、舞鶴市にお願いし平成5年にステージが、同6年には屋根が完成した。

これにあわせ、従来の行燈では風で落下する危険もあったことから、ぼんぼりに切り替え。同5年に200本を新調した(スポンサーや協賛金もたくさん集まっている)。現在のぼんぼりの数は60本くらい。スポンサーのないものも出てきている。



中舞鶴まつり (平成8年、市民グラウンド)



共楽公園のぼんぼり新調(平成5年4月)。スポンサーも多い

写真で見る 商店街の移り変わり



映画館もあった(右側)
=余部上4丁目付近(昭和30年代前半ごろ)



共楽公園北麓に並ぶ商店や看板(昭和37年)



はとや百貨店(昭和30年代=余部下)



平成6年、野外ステージ完成



昭和36年頃の花木交差点付近



中舞鶴の祭り(秋まつり)(昭和57年10月)

講座(探検)の感想・意見

▽これまでの探検隊活動ではあまり話題に出なかった、商店街の歴史がよくわかった。

▽中舞鶴の商店街は、海軍・自衛隊・造船所の盛衰に常に左右されてきた。この歴史を探ってみるのも一つの成果につながるのではないかなと思う。

▽村おこしや町おこしのために実業会を発展させようという関係者が一致団結し、様々なところで力を発揮されてこられたことがよくわかった。当時の方々が“愛する中舞鶴”を何とか発展させたいというような“ふるさとを愛する心”を子供たちにも育てたい。そのために、今すべきことは何か…と考えながら話を聞いていた。

▽もう少し商店街の道幅拡幅(国道27号)等の変遷について話を聞きたかった。街並みの変遷があったならその話を聞いたら良かったのでは…。

▽中舞鶴「夜の市」について聞きそびれてしまった。

▽形を失った事物(建物など)があまりにも早く記憶のかなたになっていることを改めて感じた。記録に残したいと思った。

【その他・自由意見】

▽毎回感じることはあるが、貴重な「資料」からわかることってこんなにも多いのかと感心するとともに楽しいなど感じる。

▽歴史探検は逃げてはいかない。一つひとつ掘り進んで、時間をかけて興味深く探検していきたい。

▽飯野家や、中舞鶴の旧家、それらにつらなる歴史的なもの等を探検したい。

▽山城、中舞鶴線など、これまでに探検したところでも、古道の歴史とあわせて再度探検してはどうか。

▽各家に伝わる宝物を集めた「お宝展」を開催してはどうか。旧家の蔵等に保管されているものを見学もしてみたい。

▽毎月第1日曜の活動日を変更してはどうか。

28年度
(第4回活動)
公開講座

中舞鶴の暮らしあれこれ ～絵葉書・レコード等から

海軍鎮守府が置かれた中舞鶴。そして市を挙げて引揚者を温かく迎え入れた舞鶴のまち。戦前・戦後の中舞鶴の暮らしを振り返る公開講座を8月7日に開催しました。講師は、余部下にお住まいの瀬野俊策さん。瀬野さん収集の絵葉書やレコード、それに自らの体験等に基づき、世界記憶遺産登録された引き揚げ・シベリア抑留関連の資料、そして日本遺産に関連する当時の中舞鶴の様子等について説明を受けました。概要を報告します。

世界記憶遺産と中舞鶴

主な資料: 白樺日誌の写真、記念誌「中舞鶴小学校百年と郷土の歴史」、絵葉書(興安丸が描かれたもの等)

- ▽中舞鶴も、世界記憶遺産となった引き揚げ・シベリア抑留と無縁でないことを知ってほしい。
- ▽世界記憶遺産を代表する資料「白樺日誌」を残した瀬野修さんは私の自宅から百数十メートルのところに住まわれていた。中舞鶴の誇りだと思う。
- ▽中舞鶴小学校100周年を記念して作られた「舞鶴ブルース」(瀬野正次作詞、早田透作曲、田原昭義補曲)の歌詞にも引き揚げ関連のフレーズ『…忘れられたか 引揚げの 平和をかけた ブロンズや あゝ記念碑の この丘に…』があり同記念誌に掲載されている。
- ▽小学2年生の時、先生に引率され引揚船「興安丸」の出迎えに行った。帰校してから、絵を描いた。大きな煙突と赤十字の興安丸の姿を鮮明に覚えている。

日本遺産と中舞鶴

主な資料: 絵葉書(共楽公園からの眺めほか)、記念誌「中舞鶴小学校百年と郷土の歴史」、海軍工廠レコード、飯野寅吉書の掛け軸ほか

- ▽共楽公園から中舞鶴駅を眺めた構図の絵葉書は、造船所や総監部など日本遺産の構成資産が描かれている。この絵葉書の絵は、SL広場にある案内板に描かれたものと同じ。
- ▽東郷平八郎の長女・八千代さんは中舞鶴小学校に入学している。
- ▽餘部稻荷神社(鎮守府設置で移転)の木額は、第2代司令長官日高壯之丞が揮毫したもの。



余部下在住の瀬野俊策さんから、世界記憶遺産や日本遺産に関わる中舞鶴のお話を伺う(平成28年8月7日、中央公民館)

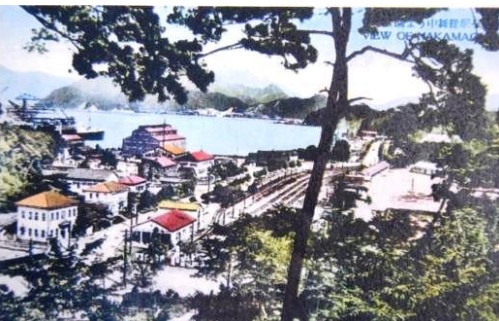


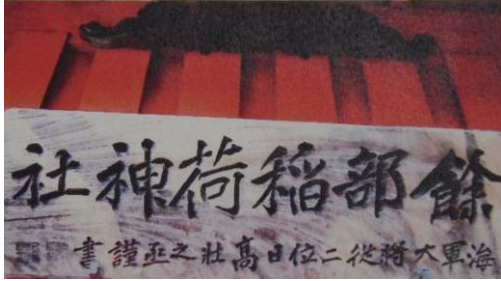
ユネスコ記憶遺産の中核的資料「白樺日誌」。作者の瀬野修さんは中舞鶴在住であつた(写真:舞鶴市HPから)



昭和30年前後の造船所と海上自衛隊岸壁。引揚船「興安丸」が見える

絵葉書(共楽公園からの眺望)や日本遺産に関わる造船所や中舞鶴駅、自衛隊などが描かれる。昭和30年前後か。





鎮守府設置に伴い移転した餘部稻荷神社の木額は、第2代司令長官日高壯之丞が揮毫したもの

「中舞鶴の暮らしあれこれ」の感想



海軍工廠や東郷元帥のレコードを蓄音機で聴かせていただきました

上は下本通、右下は海軍機関学校



▽知っているようで知らないことがあり、良い勉強の機会となった。過日、造船所の舞鶴館を見学する機会があったが、その展示資料と同じレコード(舞廠「パトロール」等)を本日、蓄音機で聴くことができた。

▽当時のレコードを蓄音機で聴けるという貴重な体験。東郷平八郎の肉声を聞くことができとてもよかった。

▽鎮守府関連のものが日本遺産登録となったが、背景にある悲しい出来事を知っておくことも大事だという講師のお話しに共感。

▽東郷平八郎の朗読レコードに本人の咳が入っていることを知った。そのような体調のもとでレコーディングせざるを得ない状況があったのだと思う。

▽今日のために展示資料の整理や取りまとめをいただいた講師にお礼申し上げます。

20 工
年 廠
5 内
月 での
2 記
日 念
の 写
日 真
付 昭
が 和
入



【お願い】掲載内容については、今後の探検活動の中で、追記・修正等を行いたいと考えております。情報提供をお願いします。

続・中舞鶴の地名を考える

～舞鶴の地名 その②～

< 建部山と安久 >

我が国に於ける名称としての〔TAKEとWAKA〕は古代メソポタミアのウル国の王ギルガメシュを意味するとされている。漢字表記の武と若が代表的な表記だが竹も建もよく使用される。喜多の西にそびえる建部山はギルガメシュ・部族・山、吉田の裏にあるく三岳山(みたけさん)は蛇・ギルガメシュ・山となる。

この建部山と三岳山の間に位置するのが『大君』。この地名はおそらく古墳時代に付けられたと考えられるが、当時の人達の間では大君=ギルガメシュ王という共通の認識があったのであろう。又建部山を見上げる地に大野辺があるが、これは多分「王の部」のこと。世界最古の叙事詩である「ギルガメシュ叙事詩」、そこに登場するウル国の王様ギルガメシュ信奉族がこの舞鶴の地にもはるばる渡来してきていたので

はないか。

これだけでも舞鶴とメソポタミアの繋がりを証明するのに十分なのであるが、実は我が舞鶴にはもう一つのメソポタミア由来の地名があった。それが『AGU』である。AGUとはシュメール語で洪水を意味する。洪水伝説で有名なのは旧約聖書に登場する「ノアの箱舟」であるが、実は先に紹介した「ギルガメシュ叙事詩」にも「ウタ・ナビシュティの大洪水」の物語が書板に記されていた。そしてこちらの洪水伝説は旧約聖書より千年以上前に書かれていた。つまり、旧約聖書のノアの箱舟は書き換えだったのである。それはそれとして、洪水伝説信奉族がギルガメシュ王の山が一番見事に望める地に「AGU」と命名したことは揺るぎのない事実である。何という壮大なる歴史ではないか！！

五千年前の「ギルガメシュ叙事詩」を肌で感じる土地、それが我々の故郷舞鶴なのである。
(井本精一)